



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙つて

今頃から国内出張が増え
てくる。名古屋からまず東
京、そして大阪や京都へ新
幹線で行く。さすがに札幌
や長崎となると飛行機にな
る。

機内で過ごす時間は、せ
いぜい二時間。私は、耳栓
代わりにヘッドホンをつけ
て落語を聞いていることが
多い。

いつだったか、春風亭昇
太の「愛犬チャッピー」

が、お囃子とともに始まった。
彼は新作落語を得意とする。軽
妙洒脱な現代語の語り口には、
真剣に聴かないとバチが当たり
そつな古典落語とは次元の違う
魅力がある。機内で聴けると
は。商店街の福引で、電動自転
車を当てたくらいにうれし
いのだ。

と同時に、乗客が多数いる閑

森 郁恵

笑いのつぼ

鎖空間での「愛犬チャッピ
ー」は危ない気もした。私
の笑いのつぼが刺激される
ことは、明白だからだ。

「愛犬チャッピー」は春
風亭昇太の代表作。一人暮
らしの若い女性が、雄の柴
犬にチャッピーと名づけて
自分流にかわいがる。チャ
ッピーは飼い主と趣味趣向
がまったく合わず、いちい
ち文句を言う。人間と犬の
掛け合い漫才のようだ。案
の定、笑いが三十秒ごと
こみ上げる。声を出して大
笑いしたい衝動を必死に抑
える。ついに我慢がでなくな
り、大声を出して笑いだして
しまった。

不思議なのは、筋を知って
いても同じところで笑いたくなる
ことだ。最初に笑いたい情動が
あり、落語は笑つきっかけにす
ぎないのだろうか。笑いのつぼ
の探求。脳科学研究の未開拓分
野である。(名古屋大教授)

2011.4.22

2011.4.22 1面 No.15